

## 脂質異常症の検査とその診断

若槻 明彦

## Summary

脂質検査は10時間以上の絶食後に採血を行い、総コレステロール(TC)、中性脂肪(TG)、高比重リポ蛋白コレステロール(HDL-C)濃度を測定し、Friedewaldの式 $(TC - HDL-C - TG/5)$ から低比重リポ蛋白コレステロール(LDL-C)を推測するか、直接法で測定する。TGが400mg/dL以上や食後の場合にはnon HDL-C $(TC - HDL-C)$ か、LDL-C直接法を使用する。LDL-Cが140mg/dL以上を高LDL-C血症、HDL-Cが40mg/dL未満を低HDL-C血症、TGが150mg/dL以上を高TG血症、non HDL-Cが170mg/dL以上を高non HDL-C血症と診断する。

## Key words

中性脂肪(TG)  
総コレステロール(TC)  
LDL コレステロール(LDL-C)  
HDL コレステロール(HDL-C)  
閉経後女性

## はじめに

心筋梗塞や脳卒中などの心血管疾患(cardiovascular disease ; CVD)の発症頻度は、男女いずれも年齢とともに上昇するが、女性の場合は閉経後に急増する。CVDの発症頻度は男性が高率であるが、発症後の死亡率は女性が男性よりも高率との報告<sup>1)</sup>もある。女性の場合、CVDの発症には閉経後のエストロゲン減少が大きな要因である。動脈硬化のリスク因子の1つに脂質異常症がある。脂質代謝はエストロゲン濃度と密接に関与し、閉経後に上昇した低比重リポ蛋白コレステロール(low density lipoprotein cholesterol ; LDL-C)がCVD発症と密接に関与することがわかっている。Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS)によると、総冠動脈疾患発症および心筋梗塞発症の多変量ハザード比は、LDL-Cが80mg/dL未満に比較して140mg/dL以上の場合、男女ともに高値であることが報告されており、男女ともに冠動脈疾患の発症にはLDL-Cが関連することが示されている<sup>2)</sup>。

本稿では、女性の脂質異常症の検査と診断について概説する。

## 脂質異常症と粥状硬化

肝から血中に分泌された超低比重リポ蛋白(very low density lipoprotein ; VLDL)は、リポ蛋白リパーゼ(lipoprotein lipase ; LPL)により中間比重リポ蛋白(intermediate density lipoprotein ; IDL)に

Akihiko Wakatsuki

愛知医科大学産婦人科学講座主任教授